

2次予選進出ならず

伝スポ

第101回全国高校サッカー

1・2年生での
二次予選

挑戦

部員 14名

選手 12名、マネージャー 2名

常葉ゴールを割れず



伝習館スポーツ

第12号 令和4年7月
伝習館高等学校 広報・中学募集課

第101回
全国高校
サッカー

福岡常葉

0-2

第101回全国高校サッカー選手権福岡大会第1次予選は7月23日、星琳高校サッカー場ほかで1回戦20試合が行われ、1・2年生の若いチームで臨んだ伝習館高校は、3年生が残る福岡常葉高校に0-2で敗れた。

1・2年生で奮闘

3年生の最後の試合となる福岡常葉に対し、1・2年生だけの若いチームの伝習館との差がハッキリと出た試合だった。

立ち上がりから勢いを感じさせる福岡常葉に、開始3分

にゴール前でフリーの状況をつくられ先制を許した。攻撃・守備ともに相手の出足が良く、早い時間の失点に動揺が隠せなかった。得意のパスを繋ぐこともカットされ、守備では相手に裏を取られるなど苦戦が続いた。

後半リズムを取り戻す

後半に入ると、ボールを確実に繋ぎ、サイドから相手を崩す攻撃でリズムを取り戻したようにみえた。ボールの保持率も向上し、相手ゴール前でチャンスをつくった。だが、なかなかゴールを割れない。

その後一進一退の攻防が続いていたが、後半10分、相手MFの強烈なミドルシュートがゴール右隅に決まり、痛恨の2点目を献上した。

諦めない伝習館イレブンは、最後まで常葉ゴールをこじ開けようと試みるが、相手DFの堅守に阻まれた。

「国」への第一関門

福岡常葉は、3年生にとつて最後の大会として臨んできた。負ければ「高校サッカー」の引退。強い思いが表れたプレーが随所に見られた。

伝習館は1・2年生のチームで選手権予選を戦った。相手のプレッシャーに圧された場面も多かった。ただ、この感覚は、決して練習試合では得ることができない。この「貴重な体験」を、南部地区の1部に返り咲いた。「冬のリーグ戦」「春のインターハイ予選」「来年の選手権予選」に生かして欲しい。

選手権大会とは

全国高校サッカー選手権大会は、高校男子サッカーの頂点を決める大会。全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会、高円宮杯 JFA U-18サッカーリーグと並ぶ高校サッカー三大全国大会のひとつ。

伝習館高校サッカー部は、昭和44年に同好会として発足し、翌45年に部に昇格。全国高校サッカー選手権大会福岡県予選では、第66回大会準優勝。第68回大会では、福岡大会を勝ち抜き、悲願の全国大会初出場を果たした。

過去の福岡県代表

(出場回数順)

東福岡	出場22回
東海大五(現東海大福岡)	出場15回
福岡商(現福岡翔)	出場5回
山田(旧制山田中1回)	出場3回
筑陽学園	出場3回
門司工	出場2回
九州国際大付	出場2回
嘉穂中(現嘉穂高)	出場1回
伝習館	出場1回
福岡大大濠	出場1回

※第1回〜8回

関西の学校のみ参加

第9回〜44回

ブロック代表出場

第45回〜49回

総体・国体上位校、地域

推薦校 など16校

第50回〜61回

ブロック代表校

第62回〜

原則として1都道府県

1代表制で実施

伝習館は令和5年度に200周年を迎えます

文武両道とは「二兎を追うこと」!

